

平成 19 年 5 月 8 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 エ フ ア ン ド エ ム
(コード番号 4771 大証ヘラクレス)
本 社 大阪府吹田市江坂町 1-23-38
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 森 中 一 郎
問 い 合 せ 先 常 務 取 締 役 管 理 本 部 長 西 川 洋 一 郎
T E L 0 6 - 6 3 3 9 - 7 1 7 7

業績予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 3 月期 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日) の連結および個別の業績予想につきまして、平成 18 年 11 月 2 日に公表した業績予想を下記のとおり修正しますのでお知らせいたします。

記

I 通期業績予想の修正

(1) 平成 19 年 3 月期連結業績予想数値の修正 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	5,180	637	224
今 回 修 正 予 想 (B)	4,424	387	△26
増 減 額 (B - A)	△756	△250	△250
増 減 率 (%)	△14.6	△39.2	—
<ご参考> 前期実績 (平成 18 年 3 月期)	4,672	774	242

(2) 平成 19 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	4,393	657	238
今 回 修 正 予 想 (B)	3,803	364	△38
増 減 額 (B - A)	△590	△293	△276
増 減 率 (%)	△13.4	△44.5	—
<ご参考> 前期実績 (平成 18 年 3 月期)	4,044	808	294

II 業績予想修正の理由

(1) 連結（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

当社グループの平成19年3月期の活動においては、財務コンサルティング事業では当初予想を上回る実績をあげたものの、TaxHouse 事業では銀行代理業認可取得後も新規加盟数が伸び悩み、予想を大幅に下回ったほか、その他事業におけるパソコン教室FC募集も当初見通しに対し厳しい結果となりました。また連結子会社における再就職支援事業も市場減衰の影響を避けられず、連結売上高につきましては前回予想を14.6%下回る4,424百万円となる見通しです。

上記の売上高減少要因を受け、特に下半期において全社的にローコストオペレーションを推し進めましたが、売上高の不足を完全に補うには至らず、連結経常利益につきましては、前回予想を39.2%下回る387百万円となる見通しです。

連結当期純利益につきましては、上記理由に加え、連結子会社のチャレンジャー・グレイ・クリスマス社に対して計上していたのれん（102百万円）を全て減損損失として計上すること、固定資産除却損（35百万円）および保険契約解約損（30百万円）の計上等が見込まれるとともに、繰延税金資産の回収可能性について厳格に見積を行ったため、26百万円の損失となる見通しです。

(2) 個別（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

当社グループの平成19年3月期の活動においては、財務コンサルティング事業では当初予想を上回る実績をあげたものの、TaxHouse 事業では銀行代理業認可取得後も新規加盟数が伸び悩み、予想を大幅に下回ったほか、その他事業におけるパソコン教室FC募集も当初見通しに対し厳しい結果となりました。その結果、個別売上高につきましては前回予想を13.4%下回る3,803百万円となる見通しです。

上記の売上高減少要因を受け、特に下半期において全社的にローコストオペレーションを推し進めましたが、売上高の不足を完全に補うには至らず、個別経常利益につきましては、前回予想を44.5%下回る364百万円となる見通しです。

個別当期純利益につきましては、上記理由に加え、関係会社株式として保有していた連結子会社のチャレンジャー・グレイ・クリスマス社の株式につき評価損を計上（180百万円）すること、固定資産除却損（35百万円）および保険契約解約損（30百万円）等の計上が見込まれるとともに、繰延税金資産の回収可能性について厳格に見積を行ったため、38百万円の損失となる見通しです。

以上